飯能市エコツアー
「原市場地区の鉄文化を訪ねて」
5月３０日(土)　９：20～14：10

主催：原市場探訪会

飯能の原市場地区には、鉄の文化をうかがわせる地名やそれらにまつわる形跡が残されています。地区を散策しながら、鉄から見た原市場地区の歴史をガイドと一緒にひもときましょう！
昼食は、地元 赤沢の喫茶・ギャラリー「壺小屋」です。

エコツアー　原市場地区の鉄文化を訪ねて
５月３０日(土) ９：20～14：30　参加者２３名　総歩数 １４,８３０歩

原市場地区の鉄文化を訪ねてに参加することになったのは、住まいが原市場東自治会の房ヶ谷戸地区であり西光寺跡地にある,四基からなる西光寺板石塔婆(板碑）いたび 及び金山という地名が「タタラ場」鍛冶に関係している等、以前より興味を持っていたことと、戸谷克己氏（飯能郷土史研究会会員)の ガイドが聞ければ昔からの文化が少しは理解できるのではとの思いで参加してみました。

原市場東自治会ではホームページ運用を試行中ですが、地元の魅力と史跡など郷土の歴史と原市場景観の魅力を四季の風景・花・木々等紹介しています。また四季を感じる歩こう会の行事を写真等で掲載しています。

今回のエコツアーで原市場地区の歴史と鉄文化があった痕跡などを探訪会協力スケジュールにて探索した場所・文化財を写真で紹介します。
タタラ場の痕跡に関する資料は戸谷氏（飯能郷土史研究会会員)著書を掲載させて頂きますので、詳細確認してみてください。

ツアーコースは以下の流れとなります。
・原市場上赤工自治会館で受付、戸谷氏よりタタラ場の痕跡とコース紹介
・上赤工の畑ケ中にある「古歌」、石の地蔵の後ろにある板の扁額
・名栗川(入間川)に掛けられた、金山の流れ橋（景観抜群）
・名栗川が大きく蛇行する場所が聖天淵と呼ばれている、その淵に巨岩の上に聖天様を祀った祠がある。「地名に残るタタラ場の痕跡」著者 戸谷氏 ホームページサイドメニュー「地元の魅力」に掲載されています。
・房ヶ谷戸の「五社神社」に祀られているそれぞれの五つの神社の祭神名は著者 戸谷氏「タタラ場があったさらなる痕跡Ⅱ」で別途紹介予定です。
・板石塔婆は「地元の魅力-房ヶ谷戸よもやま話-西光寺板石塔婆」に掲載。
・赤沢へバス移動し壺小屋で昼食。
・赤沢の星宮神社にある妻沢の人達が奉納した鍛冶の場面が描かれた巨大な絵馬とは、この地にタタラ場が存在した確実な証拠である。
・バスで帰るメンバーと別れ、中ノ坂入口から妻沢を抜け原市場中学へ
・原市場～金山～房ヶ谷戸コースで帰宅、
途中に珍しい花　「八重咲きのどくだみ」あり、撮影しました。

名栗川の大正橋上流　　上赤工バス停そばの上赤工自治会館集合
原市場上赤工自治会館で受付、戸谷氏よりタタラ場の痕跡とコース紹介

上赤工の畑中にある「古歌」、石の地蔵の後ろにある板の扁額

上赤工かみあかだぐみから原市場東 金山へ通じる流れ橋を渡る

流れ橋を渡り階段登り500mほどで聖天淵入口へ
途中に中藤・原市場の文化財マップ

名栗川が大きく蛇行する場所が聖天淵と呼ばれている、その淵
に巨岩　の上に聖天様を祀った祠がある。

聖天様については「地名に残るタタラ場の痕跡」著者 戸谷氏
ホームページサイドメニュー「地元の魅力」に掲載されています。

金山地区 金亀館「金亀山長福寺」の横に聖天神社「叶神社」があり、
歓喜天が祀ってある。

歓喜天については
「地名に残るタタラ場の痕跡」
を参照願う。
聖天様＝歓喜天
←木製

聖天様＝歓喜天
鉄を鍛造↓

「聖皇太子」
と刻んだ石碑

金山から徒歩で５分程の場所に房ヶ谷戸の地に鶴鳴館（旧西光寺跡地）
横に五つの神社が統合されて一つの「五社神社」がある。

「五社神社」
　秋葉、愛宕、稲荷、日吉、三島
五つの神社が集められている。

　西光寺へは川端から真っ直ぐに広い参道が延びていて山門があった。
この西光寺廃寺跡の墓地に巨大な板碑群、
阿弥陀三尊種子板碑 四基 （市指定文化財,鎌倉時代）

赤工あかだぐみバス停から赤沢地区茶内へ移動、星宮神社入口

金錫寺きんしゃくじを左に見る。

昼食は、赤沢の喫茶・ギャラリー「壺小屋」で
キーマカレー・飲み物付きを美味しく頂き、休憩。

CIMG3782

「赤沢」という集落にの星宮神社に奉納されている
絵馬を見学。

CIMG3784

CIMG3785

この星宮神社の絵馬は、その描かれた内容から見て、まさにこの

「赤沢」＝「金山」周辺にタタラ場があり、そこで盛んに製鉄が行われていたという事実を雄弁に者が立っている（戸谷氏）

バスで帰るメンバーと別れ、中ノ坂入口から妻沢を抜け原市場中学へ
原市場～金山～房ヶ谷戸コースで帰宅、

帰路途中に珍しい花　「八重咲きのどくだみ」あり、撮影しました。

今回の「原市場地区の鉄文化を訪ねて」に参加し非常に勉強になった。
地名というものは そこにすんでいた人達のせいかつや文化を色濃く
物語っている事など、戸谷克己氏（飯能郷土史研究会会員)の ガイドで
物事の繋がりなど見えないところまで説明頂き、原市場地区の歴史の
深さに大変興味持てた。

「地元の魅力」で一部紹介しているが、タタラ場の痕跡について今後とも
戸谷氏著書を掲載了解のもとに紹介していきたいと思います。
原市場探訪会の皆様、ありがとうございました。

掲載写真コピー添付

CIMG3706

CIMG3707

CIMG3709

CIMG3711

CIMG3712

CIMG3713

CIMG3715

CIMG3716

CIMG3717

CIMG3718

CIMG3720

CIMG3721

CIMG3722

CIMG3723

CIMG3725

CIMG3727

CIMG3728

CIMG3729

CIMG3730

CIMG3731

CIMG3732

CIMG3733

CIMG3735

CIMG3736

CIMG3738

CIMG3739

CIMG3740

CIMG3741

CIMG3742

CIMG3743

CIMG3744

CIMG3745

CIMG3746

CIMG3747

CIMG3751

CIMG3752

CIMG3753

CIMG3754

CIMG3755

CIMG3756

CIMG3761

CIMG3762

CIMG3763

CIMG3764

CIMG3766

CIMG3768

CIMG3769

CIMG3770

CIMG3771

CIMG3773

CIMG3776

CIMG3777

CIMG3780

CIMG3782

CIMG3784

CIMG3785

CIMG3786

CIMG3788

CIMG3789

CIMG3791

CIMG3792

CIMG3796

CIMG3797

CIMG3798

CIMG3801

CIMG3802